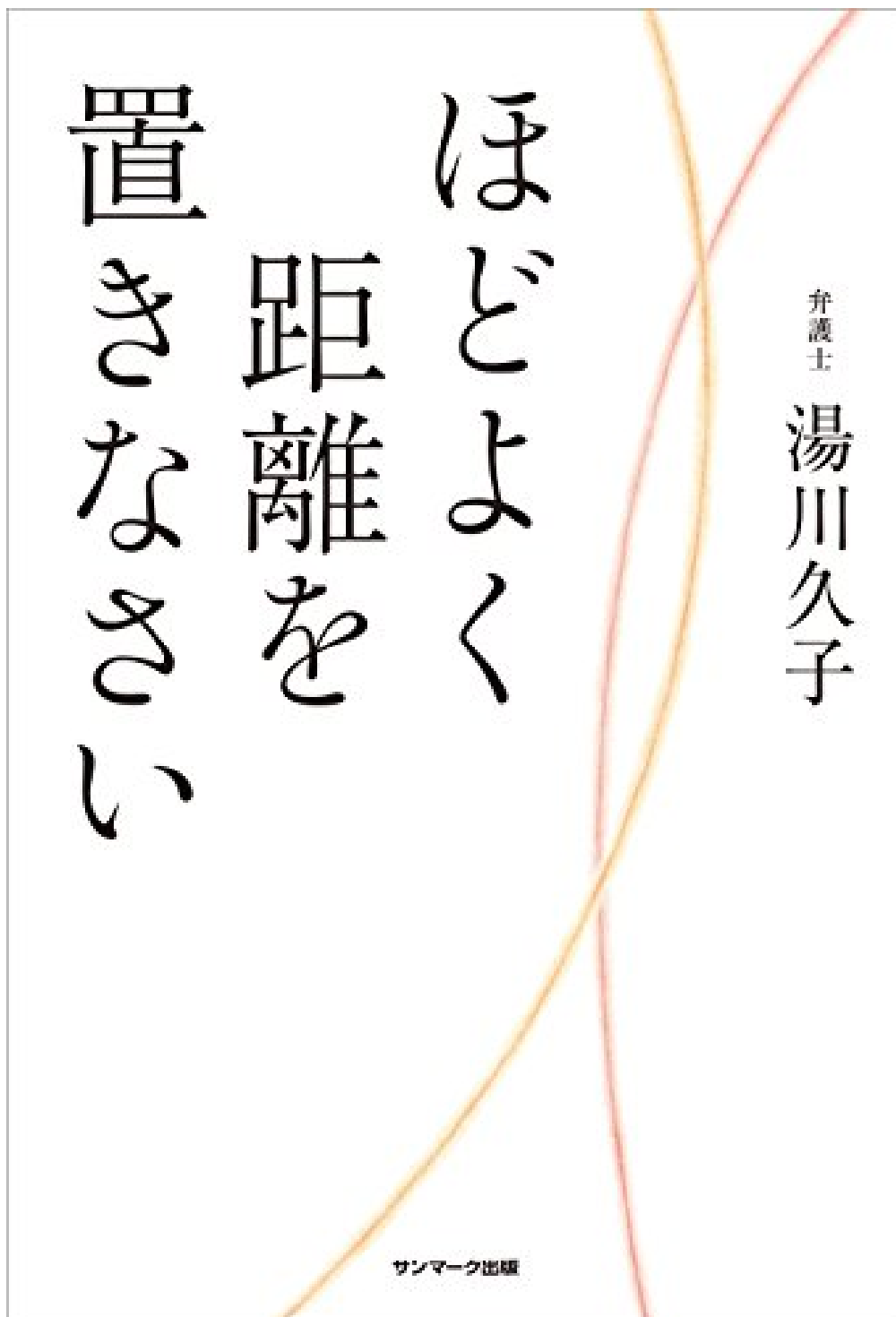


ほどよく距離を置きなさい



発売日: 2017年11月22日

出版: サンマーク出版

著者: 湯川 久子

ページ: 140

PDF

人間関係の中で生まれる小さなトゲや心のからまり。

やさしい自分でいたいののに、本当はもっとやさしい自分のはずなのに、
怒りや嫉妬がそれを邪魔することって、ありませんか？

長く連れ添った夫や妻、子ども、嫁や婿。そして、気心知れた友人、ご近所さん。
自分の周囲の誰かと、思っているよりもう半歩だけ、ちょっと距離を置いてみると、やさし
さを取り戻し、本来の自分らしく、心地よく生きられる。

そう説くのが、本書の著者、90歳の現役弁護士、湯川久子氏です。
九州第1号の女性弁護士として福岡市に開業してから、おもに離婚や相続といった人間関係
の交通整理を専門に人間関係のもつれをほどいてきた湯川氏。

1万件を超える相談案件を通して、「どんな人でも、外からはうかがい知ることのできない、
悩みや迷いを抱えている」こと。

そして、「ほどよく距離を置くことこそ、人が心地よく生きていくために必要な心がけ」と
実感するに至ったそうです。

人の心は法で裁くことはできず、法廷で裁かれる「勝ち」あるいは「負け」が、人生の本当
の幸せを決めることはない。

60年以上にわたってそれを実感しながら、法で裁くことのできない人間模様を目の当たり
にしてきた著者が、

「それでは、本当の幸せとはなんだろうか」と思いを馳せ続けた結論が、この本につづられ
ています。

離婚、介護によるトラブル、自殺など、多くの問題を抱える現代。
人とつながることは簡単になっているはずなのに、それに反比例するかのようには、人間関係
は希薄になり、孤独な人を増やしているのかもしれない。

そんな今だからこそ、時代が移ろうとも変わらない、本当の幸せな生き方とは何か、考え
てみませんか？

やさしく、しなやかに、あらがわず、でも、流されず。
多くの相談者が「話すだけで心が軽くなった」と信頼を寄せる現役弁護士の生き様から紡ぎ
出される言葉が、あなた本来のやさしさを、きっと思い出させてくれることでしょう。

* 目次より

争いごとで「命の時間」を無駄にしない
正しいことを言うときは、ほんの少しひかえめに
お互いの「台所の奥」には入らない
「話す」ことで問題とほどよい距離が生まれる
誰かのために流した涙が人の心を育てていく
人は一番の本音を言わずに、二番目を言いたくなる生き物
「あたりまえ」と言いたくなったら立ち止まる
一人で生きているつもりでも、一人きりで生き抜くことはできない
立つ鳥は余分なお金を残さない
時の流れは「一番つらかったこと」を「一番の思い出」に変える

